

研究ノート

『永平略録』と『永平広録』の関係

(下)

—本文対照校異—

菅原 諭 貴

凡例

一、「永平略録」は、駒沢大学図書館所蔵本（延文三年八一三五八）版の後刷りといわれる）を底本として用いた。

一、「永平広録」は、正山本は大谷哲夫編『正山本永平広録_{祖山本全}』（一穂社）、門鶴本は渡部賢宗・大谷哲夫監修『祖山本永平広録_{考注集成}』（一穂社）を用いた。

一、正山本・門鶴本の傍線部は、『永平略録』本文との共通箇所であり、字句が前後したり、異体・俗字等がある場合は点線で示した。また、「興聖」「大仏」「永平」の自称、禅機を示した語、「良久云_曰」、その他特殊な用語については□で囲んで示した。

一、本文は原則として底本に拠ったが、明らかに誤字・脱字と思われる箇所は、それぞれ対応する諸本により訂正した。

一、各本の「上堂」欄等の冠頭には、それぞれ通し番号を附し

ておいた。

一、本文の出典、典拠のある字句については、涉典の書名を略名で表記した。その略名は次の通りである。

遺教經（仏垂般涅槃略説教誠經）金剛經（金剛般若波羅蜜經）伝灯錄（景德伝灯錄）広灯錄（天聖広灯錄）雲門錄（雲門匡真禪師広録）臨濟錄（鎮州臨濟慧照禪師語録）統要集（宗門統要集）円悟錄（円悟仏果禪師語録）趙州錄（趙州真際禪師語録）会要（聯灯会要）普灯錄（嘉泰普灯錄）宏智錄（宏智禪師広録）如淨錄（天童如淨禪師語録）拈頌集（禪門拈頌集）

一、各本の対照については、下段の「備考」欄に記した。

研究ノート 「永平略録」と「永平広録」の関係(下) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(51) 上堂衲僧拄杖黒如漆不下 與世間凡木儔上打破從前 山鬼窟嶺梅忽綻上枝頭	(356) 上堂衲僧拄杖黒如漆不下 與世間凡木儔上打破羅籠 籠公案現雪梅頓發上枝頭	(359) 上堂衲僧拄杖黒如漆不下 作世間凡木儔上打破籬籠 公案現雪梅頓發上枝頭	
(52) 上堂舉僧問趙州如何是祖師西來意 州云庭前柏樹子僧云和尚莫以境示人 州云吾不以境示人僧云如何是祖師西來意 州云庭前柏樹子僧云和尚莫以境示人 州云吾不以境示人趙州曰吾不以境示人 州云如何是祖師西來意趙州曰庭前柏樹子 僧云和尚莫以境示人趙州曰吾不以境示人 州云吾不以境示人趙州曰如何是祖師西來意 州云庭前柏樹子師曰南無趙州古佛拈出西來宗旨 州云柏樹子不將境示人只憑庭柏舉似敢明此理 州云莫將江南橘喚作江北枳	(429) 上堂曰記得僧問趙州如何是祖師西來意 趙州曰庭前柏樹子僧曰和尚莫以境示人 趙州曰吾不以境示人趙州曰如何是祖師西來意 趙州曰庭前柏樹子師曰南無趙州古佛拈出西來宗旨 趙州云柏樹子不將境示人只憑庭柏舉似敢明此理 趙州云莫將江南橘喚作江北枳	(433) 上堂云記得僧問趙州如何是祖師西來意 趙州云庭前柏樹子僧云和尚莫以境示人 趙州云吾不以境示人趙州曰如何是祖師西來意 趙州云庭前柏樹子師曰南無趙州古佛拈出西來宗旨 趙州云柏樹子不將境示人只憑庭柏舉似敢明此理 趙州云莫將江南橘喚作江北枳	
(433) 上堂云記得僧問趙州如何是祖師西來意 趙州云庭前柏樹子僧云和尚莫以境示人 趙州云吾不以境示人趙州曰如何是祖師西來意 趙州云庭前柏樹子師曰南無趙州古佛拈出西來宗旨 趙州云柏樹子不將境示人只憑庭柏舉似敢明此理 趙州云莫將江南橘喚作江北枳	(略録) 僧問趙州、「拈頌集」一一。本では「記得」とある。 〔略録〕に「拍膝一下云」と禅機を示す語あるも円本・門本では「良久曰(云)」とある。	(略録) 僧問趙州、「拈頌集」一一。本では「記得」とある。 〔略録〕に「拍膝一下云」と禅機を示す語あるも円本・門本では「良久曰(云)」とある。	

(53) 上堂召大衆云非但曹谿西天亦無會佛法人或有箇漢出來道和尚恁麼道取笑露柱燈籠只向他道這箇是長連牀上學得底向上事作麼生良久云將謂胡鬚能樣亦元來更有赤鬚胡	(21) 上堂曰非但曹谿無西天竺亦無會佛法人得和尚還不得露柱是古佛燈籠新如來這箇是長連床上學得底向上又如何良久曰將謂胡鬚天下赤元來更有赤鬚胡	(21) 上堂云非但曹谿無西天竺亦無會佛法人得和尚還不得露柱是古佛燈籠新如來這箇是長連床上學得底向上又如何良久云將謂胡鬚天下赤元來更有赤鬚胡
(54) 上堂教中道一切賢聖皆以無爲法而有差別諸人喚什麼作差別指那箇作無爲法向他道差別底是怎麼會得作箇無事衲僧其或不然長連牀上有粥有飯	(20) 上堂曰教中道一切賢聖皆以無爲法而有差別有レ人若問作麼生是差別法向他道纔涉差別便不是了也作麼生是無爲法對他道差別智難明畢竟作麼生是這箇道理長連牀上有粥有飯	(20) 上堂云教中道一切賢聖皆以無爲法而有差別有レ人若問作麼生是差別法向他道纔涉差別便不是了也作麼生是無爲法對他道差別智難明畢竟作麼生是這箇道理長連牀上有粥有飯
(55) 臘八上堂瞿曇老賊入魔魅惱亂人天沒了時打失	(21) 臥八上堂曰瞿曇老賊入魔魅惱亂人天狼藉時打失	(21) 臥八上堂云瞿曇老賊入魔魅惱亂人天狼藉時打失
〔如淨錄〕〔清涼寺語錄〕の「臘八上堂」参照。	教中道—「金剛經」。差別智難明—「大慧正法眼藏」一、長連牀上有粥有飯—「雲門錄」上。	非但曹谿無云々—「伝灯錄」五、青原行思章。「統要集」一、六祖慧能章。両者の合採か。八、百丈懷海章。

研究ノート『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(56) 眼睛無處覓梅花新發舊年枝	失眼睛無處覓梅花新發舊年枝	眼睛無處覓梅花新發舊年枝	
(57) 上堂出西天入東土雲從龍風從虎一任諸方點頭舉拂子云只如順行三千逆行八百作麼生會若會得穿過七佛鼻孔爍破諸人眼睛若也不會唯有衲僧無底鉢依前盛飯又盛羹	(200) 上堂曰出西天入東土雲從龍風從虎一任諸方點頭舉拂子曰只如順行三千逆行八百又作麼生商量得穿過七佛鼻孔若商量得穿過七佛鼻孔爍破諸人眼睛商量不得唯有衲僧無底鉢依前盛飯又盛羹	(201) 上堂云出西天入東土雲從龍風從虎一任諸方轉身點頭舉拂子云只如遮箇順行三千逆行八百又作麼生商量若商量得穿過七佛鼻孔爍破諸人眼睛商量不得唯有衲僧無底鉢依前盛飯又盛羹	
(58) 上堂若將佛法相當人情未免眉鬚墮落破除佛法	(139) 上堂云吞盡三世諸佛借人鼻孔出氣迦葉當時破顏至今猶未警地參	(141) 上堂云吞盡一切佛祖尚借人鼻孔出氣迦葉當年破顏至今猶未警地	出西天入東土云々—『普灯録』一 三。唯有衲僧無底鉢—『普灯録』一七。
(155) 上堂曰若說佛法供養兄弟未免眉鬚墮落若不下	(141) 上堂云若說佛法供養兄弟未免眉鬚墮落若不下	迦葉當年破顏—『廣灯録』二、參照。『略録』・円本に「參」の語あるも門本になし。	但得雪消去云々—『伝灯録』二四、帰宗道詮章。

向上提持入地獄如箭射
要見永平爲人處麼但
得雪消去自然春到來

說法供養兄弟入地獄如箭
射超此一途天佛今日將
今日將什麼爲兄弟良
久云天上無彌勒地下無
彌勒見面勝聞名逢人謾
不_レ得

(59) 上堂佛佛授手祖祖相傳相
傳箇什麼授手箇什麼大
衆要知落處麼三世諸佛
六代祖師當甚破草鞋破木
杓若也擬議永平在你脚
底

(71) 上堂曰佛佛授手祖祖相傳
相傳箇什麼授手箇什麼
大家若知而今落處三世
諸佛六代宗師破草鞋破木
杓盡力曳而未肯止若也
擬議大佛在爾脚底

(60) 上堂山僧有箇方便明明
爲汝親傳靠箇蒲團禪板
酌然綻火中蓮

(403) 上堂祖師有箇方便八倒
未終七顛禪板蒲團拄杖今
時作火中蓮

(61) 上堂世尊道一人發真歸源

(178) 上堂曰世尊道一人發真歸

(179) 上堂云世尊道一人發真歸源

說法供養兄弟入地獄如箭
射超此一途天佛今日將
什麼爲兄弟良久云天上
無彌勒地下無彌勒見面勝
聞名逢人謾不得

天下無弥勒云々—【伝灯錄】一七、
雪居道膺章。

【略録】の「永平」の自称は正本。

門本では「大仏」とある。

正本・門本には「良久云」以下
の語あるも【略録】になし。

【略録】と正本・門本は別上堂と
すべきか。

【略録】の「永平」の自称は正本。
門本では「大仏」とある。
在你脚底—【趙州錄】。

【略録】の「山僧」の自称は正本。
門本では「祖師」とある。

世尊道—【円悟錄】八。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(62) 天童和尚忌上堂云入唐學 歩失邯鄲鼻直眼橫無兩 般莫謂天童瞞學者天童 發真歸源	十方虛空悉皆銷殞五祖演和 尚道一人發真歸源十方虛 空築着磕着夾山圓悟禪師道 一人發真歸源十方虛空錦 上添花佛性泰和尚道一人 發真歸源十方虛空只是十 方虛空天童先師云一人發 真歸源十方虛空悉皆銷殞 既是世尊所說未免作奇特 商量一天童即不然一人發 真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿恁麼永平不恁麼 一人發真歸源十方虛空 發真歸源	源十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源	十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源
(183) 天童和尚忌上堂曰入唐學 歩失邯鄲鼻直眼橫無兩 般莫謂天童瞞學者天童 發真歸源	十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源	源十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源	十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源
(184) 天童和尚忌上堂云入唐學歩 步失邯鄲鼻直眼橫無兩 似邯鄲運水幾勞柴也般 莫謂先師瞞弟子天童却	十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源	十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源	十方虛空悉皆消殞五祖山法 演和尚道一人發真歸源十 方虛空築著磕着夾山圓悟 禪師道一人發真歸源十方虛 空錦上添花佛性法泰和尚 道一人發真歸源十方虛空 只是十方虛空先師天童道 一人發真歸源十方虛空悉 皆消殞既是世尊所說未免 作奇特商量天童則不然一人 發真歸源乞兒打破飯椀師 云五尊宿道是恁麼 永平不恁麼一人發真歸源 源十方虛空發真歸源

入唐學歩——「莊子」、秋水篇。
『略録』・円本の「永平」の自称は
門本では「道元」とある。
門本には「本云」以下の語がある

曾被「永平瞞」

曾被「永平瞞」

被「道元瞞」

本云入唐学歩似邯鄲運水雖
勞柴也般秦主莫言瞞趙璧天
童却被道元瞞

が、「略録」・正本にはなし。

(63) 上堂天下太平鉢盂處處喫レ

飯萬姓安樂露柱時時開レ花
所以迦葉微笑破顏慧可禮拝
得髓直饒到這田地更參三
十年所以道不レ登太山不レ
知天之高不レ涉滄溟不レ
知海之闊若是箇漢納天
地於一粒粟中置大海於一
毫頭上華藏界常寂光盡在
眉毛眼睫之上且道這人在
什麼處安身立命拍膝一
下云山川磨破草鞋底到了依前
方知被眼瞞

(187) 上堂曰天下太平鉢盂處處

喫レ飯萬姓安樂露柱時時開レ
花所以迦葉微笑破顏慧可禮
拝得髓直饒到這田地更參
三十年所以者何不レ登太
山不知天之高不レ涉滄溟
不レ知海之闊若是箇漢納天
地於一粒粟中置大海於一
毫頭上華藏界常寂光盡在
眉毛眼睫之上且道這人在
什麼處安身立命拍膝一
下云山川磨破草鞋底到了依前
方知被眼瞞

(188) 上堂云天下太平拄杖處處喫

飯萬姓安樂露柱時時開花所
以迦葉微笑破顏慧可禮拝得
髓到這田地更參一生所
以者何不レ登太山不レ知
天之高不レ涉滄溟不レ知
海之闊若是參學人天在一
粒粟中海在一毫頭上花
藏界常寂光盡在眉毛眼睫
之内且道這箇人在什麼
處安身立命還委悉良久云
悉麼良久曰山川磨破草
山川磨破草鞋底到了依前
底到了方知被眼瞞

「略録」の「拍膝一下云」の禪機
を示す語は、正本・門本では「良
久曰(云)」とある。

研究ノート『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	尼山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(64) 上堂舉僧問「投子」如何是一大事因縁投子云尹司空請老僧開堂師云若是永平則不然有問「如何是一大事因縁」只對他道早朝喫粥齋時飯健即經行困即眠	(190) 上堂曰記得僧問「投子」如何是一大事因縁投子曰尹司空請老僧開堂師曰若是永平則不恁麼或有那人問「如何是一大事因縁」只對他道早朝喫粥午時飯健即經行困即眠	(191) 上堂云記得僧問「投子」如何是一大事因縁投子云尹司空請老僧開堂師云若是永平則不恁麼道如何道或有人問「如何是一大事因縁」只對他道早朝喫粥午時飯健即坐禪困即眠	僧問投子——『伝灯録』一五、投子大同章。尼本・門本に「記得」の語あるも『略録』になし。
(65) 開爐上堂掘地覓天日面月面撥波求火徹底通紅掀翻臨濟赤肉團勘破雪峯古鏡閣燒丹霞木佛煅陝府鐵牛管取寒灰再焰却歸暖處商量	(192) 開爐上堂曰掘地覓天日面月面撥波求火徹底通紅掀翻臨濟赤肉團勘破雪峯古鏡閣燒丹霞木佛煅陝府百鍊陝府鐵牛管取寒灰再焰且歸煖處商量	(193) 開爐上堂云掘地覓天日面月面而相見剗空種蓮非紅非白而開發弄來臨濟赤肉團勘破雪峯古鏡閣更燒丹霞木佛百鍊陝府鐵牛莫笑寒灰再蘇且歸煖處商量	『略録』に記載。『傳燈録』、示衆。雪峯古鏡——『伝灯録』一、玄沙師備章。丹霞木佛——『伝灯録』一四、丹霞天然章。
(66) 上堂僧問「古德」深山巖崖還有佛法也無德云大小底小先師道深山巖崖問	(193) 上堂云記得僧問「古德」深山巖崖還有佛法也無德云石頭大底大小底小先師天童	(194) 上堂云記得僧問「古德」深山巖崖還有佛法也無德云石頭大底大小底小先師天童	僧問古德——『伝灯録』二四、帰宗道詮章。先師道——『如淨録』(明州瑞巖寺語錄)。

石頭大小答崖崩石迸裂虛空
鬧聒聒師云二尊宿雖恁麼
人問下深山巖崖還有佛法
也無向他道虛空消殞頑石
點頭雖然猶是佛法邊事畢
竟如何擲下拂子下座

道深山巖崖問石頭大小答崖
崩石迸裂虛空鬧聒聒師云
位尊宿雖恁麼道永平
更有道理忽有人問下深山
巖崖還有佛法也無向他
祇對虛空消殞頑石點頭雖
然猶是佛法邊事畢竟如何
擲下拂子下座

道深山巖崖問石頭大小答崖
崩石迸裂虛空鬧聒聒師云
兩位尊宿雖恁麼道永平
更有道理忽或人問中深山
巖崖還有佛法也無向他
祇對頑石點頭更點頭虛空消
殞轉消殞這箇便是佛祖邊事
作麼生是深山巖崖裏事卓
拄杖一卓下座

「略録」・正本の「記得」の語あるも
の禪機を示す語は、門本では「卓
拄杖一卓下座」とある。

(67) 元日上堂見色明心釋迦老子

(216) 元日上堂見色明心釋迦老子

(218) 上堂見色明心釋迦老漢翻筋

翻筋斗聞聲悟道達磨祖師
擎鉢盂二十五日已前靈山
話月十五日已後錦上鋪花
這箇則且置只如精金不百
鍊爭見光輝至寶不酬
價爭辨真假當恁麼時
作麼生良久云孟春猶寒伏
惟大眾尊候起居萬福

翻筋斗聞聲悟道達磨祖師
擎鉢盂二十五日已前靈山
話月十五日已後錦上鋪花
這箇未免言端語端又且
如何逢人爲人良久曰精
金不百鍊爭見光輝至寶
不酬價爭辨真假當恁麼
時作麼生孟春猶寒伏惟

精金不百鍊云々一「田悟錄」一七。
「略録」・正本には「元日」の語あ
るも門本にはなし。
「略録」・正本の「大衆」の語は門
本では「諸人」とある。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)	『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(68) 上元上堂雪覆蘆花不染 塵風光占断屬當人寒梅一 點芳心綻喚動劫壺空處春	大衆尊候起居萬福	居萬福	居萬福	
(69) 上堂舉膚頭盧尊者赴阿育 王大會王行香次作禮問云 承聞尊者親見佛來是否尊 者以手撥開眉毛曰會麼王 曰不會尊者曰阿耨達池龍王 請佛齋時貧道亦預其數	上堂舉波斯匿王問膚頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	(48) 上元上堂雪覆蘆花豈染 塵誰知淨地尚多人寒梅一 點芳心綻喚起劫壺空處春
(70) 正山本『永平広録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(526) 上堂舉波斯匿王問膚頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	(47) 上元上堂雪覆蘆花不染 塵風光占断屬當人寒梅一 點芳心綻喚起劫壺空處春
(530) 上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	上堂舉波斯匿王問賓頭盧 尊者承聞尊者親見佛來是 是不尊者以手策起眉毛示 之先師天童頌曰策起眉 毛答問端親曾見佛不相 不相瞞而今應供四天下春 在梅梢帶雪寒	(49) 上元上堂雪覆蘆花豈染 塵誰知淨地尚多人寒梅一 點芳心綻喚起劫壺空處春
寒	寒	寒	寒	
見佛撥眉毛王庫本無 如是刀阿耨達池王請佛 更將水月再三拂	拜續高韻為雲水衆大衆要 要聽麼良久曰親曾見佛 語言端策起眉毛欲不瞞 功德田春花未落瓊林老鶴 翼猶寒	高韻爲雲水衆大衆要 要聽麼良久云親會見佛語言 端策起眉毛欲不瞞功德 田春花未落瓊林老鶴翼猶	高韻爲雲水衆大衆要 要聽麼良久云親會見佛語言 端策起眉毛欲不瞞功德 田春花未落瓊林老鶴翼猶	波斯匿王問云々「会要」一、世 尊章。 先師天童頌曰「如淨錄」頌古。 正本・門本に「先師天童頌曰」の 語あるも「略録」なし。 正本・門本に「良久曰云」の語あ るも「略録」になし。 「略録」の「伸一頌」の語は正本・ 門本では「拜續高韻」とある。

(70) 上堂舉僧問「百丈」如何是奇

特事百丈云獨坐大雄峯今日

或有レ人問「永平」如何是奇

特事一只向レ他道今日鳴レ鼓

上堂

(71) 沐佛上堂不下從兜率陀天

降上豈假摩耶作聖胎突

出恒沙功德聚優曇火裡一枝

開還知釋迦老子敗缺處麼

家私都喪盡賣弄小嬰孩

(375) 上堂舉僧問「百丈」如何是奇

特事百丈曰獨坐大雄峯或

有レ人問「老僧」如何是奇

特事一向レ他道今日永平陞堂

上堂

(72) 上堂衲僧端的要參禪參

到無參是正傳只箇正傳亦

不着大家齊賀普通年

(372) 上堂衲僧學道要參禪脱落

身心法見傳一切是非都不レ

管不レ同小々普通年

(73) 解夏上堂要レ見法歲周

圓一圓相云這裡會取

又打圓相云這裡參得如

(小参7) 解夏小參曰要レ見法歲周
圓一圓相云因從這裏做又作一圓相云

(373) 上堂衲僧學道要參禪脱落

身心法見傳一切是非都不レ

管不レ同小小普通年

(378) 上堂舉僧問「百丈」如何是奇
特事百丈曰獨坐大雄峯或
有レ人問「老僧」如何是奇
特事一向レ他道今日永平陞堂

上堂

僧問百丈「如淨錄」(明州天童景德寺語錄)。

「略錄」の「永平」の自称は正本・門本では「老僧」とある。

正本・門本に「永平」の自称ある

も「略錄」になし。
正本・門本に「鳴鼓」の語は正本・門本になし。

正本・門本に対応する上堂語なし。
「略錄」特有の上堂語か。

正本・門本に「鳴鼓」の語は正本・門本になし。

門鶴本『永平廣錄』	卍山本『永平廣錄』	『永平略錄』
(74) 上堂舉僧問「巖頭」古帆未 掛時如何巖頭云小魚吞三大 魚一師云要レ會二這則因緣 聽取永平一頌一小魚吞大 魚和尚讀儒書透出佛魔 網法塵也掃除	(74) 在這裡成參得蘿蔔頭禪 滿于駢胎馬腹參得琉璃 瓶子禪打破七花八裂參得 如來禪眼裡無筋一世貧 參得祖師禪殃過無端及 兒孫恁麼參得且道永平 意作麼生但見曰頭東畔上誰 知夏未與秋初	來禪則許你會要レ見祖師 禪一直是十萬八千且道永平 意在甚處但見日頭東畔 上誰知夏未與秋初
(470) 上堂時節因緣佛性刹那前後 圓成但自長時退步乳中之酪	(191) 上堂曰記得僧問「岩頭」古 帆未掛時如何岩頭曰小魚 吞大魚要レ會二這則因緣 聽取永平一頌一小魚吞大 魚和尚讀儒書透出佛魔 網法塵也掃除	(191) 在這裡成參得蘿蔔頭禪 滿于駢胎馬腹參得琉璃 瓶子禪打破七花八裂參得 如來禪眼裡無筋一世貧 參得祖師禪殃過及兒孫 恁麼參得且道永平意作麼 生但見曰頭東畔上誰能更喫 趙州茶
(474) 上堂時節因緣佛性刹那前後 圓成積功累德雖異乳酪有	(192) 上堂云記得僧問「岩頭」古 帆未掛時如何巖頭云小魚 吞大魚要レ會二這箇因緣 聽取永平一頌一小魚吞大 魚和尚讀儒書透出佛魔 網法塵也掃除	(192) 在這裏成參得蘿蔔頭禪 滿于駢胎馬腹參得琉璃 瓶子禪打破七花八裂參得 如來禪眼裡無筋一世貧 參得祖師禪殃過及兒孫 恁麼參得且道永平意作麼 生但見曰頭東畔上誰能更喫 趙州茶
		【略錄】は「解夏上堂」とするが 出本・門本は「解夏小參」とある。 大同章。卍本・門本に「記得」の語あるも 【略錄】になし。

分明

永平上堂終

小参

分明

永平寺語録卷第七終

永平寺語録卷第八

小参

侍者 懐獎等編

無得名

永平禪寺語録七終

越州永平禪寺玄和尚小參第

八

侍者 懐獎等編

(1) 結夏小參舉慈航和尚住_二四

明天童_一結夏小參云參禪人

第一鼻孔端正其次須_二眼目

精明_一又其次貴_二宗說俱通_一

然後機用齊到始能入_レ佛入_レ

魔自他兼到何也鼻孔正則_一

切皆正如_二人居_レ家家主正其

下自化_一且如何得_二鼻孔端正_一

去_二古聖道決定不_レ流_二至第_一

二念_一就_レ中方入_二我宗門_一豈

不是向_二父母未生已前_一爲_レ

(8) 結夏小參舉慈航和尚乃黃龍

下尊宿也曾住_二四明天童_一結

夏小參曰參禪人第一鼻孔端

正其次須_二眼目精明_一又其次

貴_二宗說俱通_一然後機用齊到

始能入_レ佛入_レ魔自他兼到何

也鼻孔正則_一一切皆正如_二人

居_レ家々主正其下自化_一且如

何得_二鼻孔端正_一去_二古聖道決

定不_レ流_二至第二念_一就_レ中方

入_二我宗門_一豈不下是向_二父母未

(8) 結夏小參云慈航和尚乃黃龍

下尊宿也曾住_二四明天童_一結

夏小參曰參禪人第一鼻孔端

正其次須_二眼目精明_一又其次

貴_二宗說俱通_一然後機用齊到

始能入_レ佛入_レ魔自他兼到何

也鼻孔正則_一一切皆正如_二人

居_レ家々主正其下自化_一且如

何得_二鼻孔端正_一去_二古聖道決

定不_レ流_二至第二念_一就_レ中方

入_二我宗門_一豈不下是向_二父母未

古聖道_一『林間錄』上。
正本・門本には「永平」の自称二
カ所存するも『略録』には一カ所
のみ。

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
<p>你作箇標準了也。師云古 人雖道決定不流至第 二念敢問諸人指那箇 爲第一念永平今夜不 惜口業向諸人道九十剋 期明日始莫於繩墨外邊 行蒲團倚坐無他事終日 寥寥賀太平</p>	<p>未生已前為你作箇標準了也。又云九十剋期明日始莫以繩墨外邊行上師云古聖雖道決定不流至第 二念永平又道決定不流至第一念決定不流至無念諸人恁麼參學始得永平今夜不 惜口業向諸人道九十長 道九十剋期明日始莫於繩 墨外邊行蒲團倚坐無他事終日寥寥賀太平</p>	<p>生已前爲你作箇標準了也。又云九十長期明日始莫以繩墨外邊行上師云古聖雖道決定不流至第二 念永平又道決定不流至無念諸人恁麼參學始得永平今夜不 惜口業向諸人道九十長 道九十剋期明日始莫於繩 墨外邊行蒲團倚坐無他事終日寥寥賀太平</p>	
(2)解夏小参打一圓相云箇	(16)解夏小参打一圓相云箇	(16)解夏小参打一圓相云箇	
是沒量大事三世諸佛了此 歷代祖師悟此參學道人參 此若於日用薦得親超過 佛祖一頭地豈不見趙州 問大慈一般若以何爲體大	是沒量大事三世諸佛證此 一段事放光說法諸代祖師 修此一段事授手付髓學般 若菩薩傳此一段事以爲 面目眉毛坐夏九旬超越三	是沒量大事三世諸佛 證此一段事爲諸人衆生 放光說法諸代祖師修此一 段事授手附髓學般若菩薩 傳此一段事以爲面目眉	<p>趙州問大慈「趙州録」下。 正本・門本に「記得」の後あるも 『略録』になし。</p>

慈曰般若以レ何爲體趙州呵呵大笑來日趙州掃地次大慈問般若以レ何爲體趙州放下掃箒呵呵大笑大衆大慈趙州兩員古佛一期相見不妨奇絕今日解制斯臨作麼生商量昨日和羅飯今朝粥一孟且道古人是同是別良久云大慈若也重垂問添得趙州笑轉新久立衆慈伏惟珍重

世圓滿菩提化度衆生記得趙州問大慈般若以何爲體趙州掃地次大慈問般若以何爲體趙州放下掃箒呵呵大慈趙州掃地次大慈問般若以何爲體趙州放下掃箒呵呵大慈趙州放下掃箒呵呵大笑大慈趙州一期相見不妨奇絕今日解制斯臨作麼生商量昨日和羅飯今朝五味粥這箇是衲僧屋裡尋常活計佛祖向上又且如何大衆還要委悉麼良久云大慈若也重垂問更使趙州笑轉新久立衆慈伏惟珍重

毛坐夏九旬超越三世圓滿菩提化度衆生記得趙州問大慈般若以何爲體趙州掃地次大慈曰般若以何爲體趙州問大慈般若以何爲體趙州放下掃箒呵呵大笑大慈趙州放下掃箒呵呵大笑大慈趙州放下掃箒呵呵大笑大慈趙州一期相見不妨奇絕且作麼生商量昨日和羅飯今朝五味粥這箇是衲僧屋裏尋常活計佛祖向上又且如何大衆還要委悉麼良久云大慈般若何爲體更使趙州笑轉新久立衆慈伏惟珍重

(13)冬至小參云大功熟處一陽即生萬法歸源方見尊貴所以道盡十方世界是你一隻眼

(13)冬至小參云兄弟大功熟處一陽即生萬法歸源方見尊貴所以道盡十方世界是你一隻眼

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
<p>十方世界は你自己盡十方世界是你光明盡十方世界是箇解脱門什麼處不是你成佛處什麼處不是你說法度人處不見道護明不從兜率降一輪圓滿十方周</p>	<p>盡十方世界是你自己盡十方世界是你光明盡十方世界是箇解脱門什麼處不是你成佛處什麼處時不是你說法度人時不見道護明不下從兜率降上一輪圓滿十方周</p>	<p>一隻眼尽十方世界是你自己盡十方世界是你光明盡十方世界是箇解脱門什麼處不是你成佛處什麼時不是你說法度人時不見道護明不下從兜率降上一輪圓滿十方周</p>	<p>『略録』は「冬夜小参」とするも「略録」・「円本」になし。 円本・門本には「冬至小参」とある。</p>
<p>周舉南嶽大慧禪師因參曹溪六祖問什麼處來南嶽云嵩山安國師處來祖云是什麼恁麼來南岳罔措已經八年後告祖云懷讓會得某甲初來時間是什麼物恁麼來祖云汝作麼生會南似一物即不中祖曰還假修證否南嶽云修證即不染即不得祖曰是不污染即諸佛之所護念吾亦如是汝亦如是乃至西天諸祖亦</p>	<p>周舉南嶽大慧禪師因參曹溪六祖問什麼處來南嶽云嵩山安國師處來祖云是什麼恁麼來南岳罔措已經八年後告祖云懷讓會得某甲初來時間是什麼物恁麼來祖云汝作麼生會南似一物即不中祖云還假修證否南嶽云修證即不染即不汚染即不得祖云是不染污即諸佛之所護念吾亦如是汝亦如是乃至西天諸</p>	<p>謝詞舉南嶽大慧禪師因參曹溪六祖祖問什麼處來南嶽云嵩山安國師處來祖云是什麼物恁麼來南岳罔措已經八年後告祖云懷讓會得某甲初來時間是什麼物恁麼來祖云汝作麼生會南似一物即不中祖云還假修證否南嶽云修證即不染即不汚染即不得祖云是不染污即諸佛之所護念吾亦如是汝亦如是乃至西天諸</p>	<p>門本には「謝詞」の語あるも「略録」・「円本」になし。 円本・門本の「拳」以下の語は「略録」になし。</p>

如レ是曹溪解レ問ニ學者ニ南岳
解レ作ニ功夫ニ雖ニ然如レ是
欲ニ算盡ニ商那黑白石因レ敬レ
師感得白毫光正當恁麼時畢
竟作麼生道良久曰四大性自
復如三子得其母夜深衆慈
伏惟珍重

祖亦如レ是曹溪解ニ問ニ學者ニ
南嶽解ニ作ニ功夫ニ雖然如レ是
欲ニ算盡ニ商那黑白石因レ敬レ
師感得白毫光正當恁麼時
畢竟作麼生道良久云四大性
自復如子得其母夜深衆慈伏
惟珍重

(4)除夜小參云小參乃佛祖之家

訓也我國前代未レ聞レ舉行
永平始傳レ之經ニ二十年ニ矣
祖師西來法入震旦而前代
祖師謂之家訓非佛祖之
行履不レ履非佛祖之法服
不服拋却名利捨去人
我隱居山谷不レ離叢林
尺壁寸陰不レ顧萬事純一
辦道此乃佛祖之家訓人天眼
自然爲善知識則非僧祇

(10)除夜小參曰夫小參者佛々

祖々之家訓也我日本國前代
未嘗聞其名字何況行乎
永平始而傳レ之以來已經ニ
二十年ニ矣國之運也人之幸
也所以者何祖師西來佛法
入震旦故也所謂家訓者
自非佛祖之行履不レ履自
非佛祖之法服不服也謂
行履者名利早拋來吾我永
捨去不レ近國王大臣不レ

(10)除夜小參云夫小參者佛佛祖

祖之家訓也我日本國前代
未嘗聞其名字何況行乎
永平始而傳レ之以來已經ニ
二十年ニ矣國之運也人之幸
也所以者何祖師西來佛法
入震旦故也所謂家訓者
自非佛祖之行履不レ履自
非佛祖之法服不服也謂
行履者名利早拋來吾我永
捨去不レ近國王大臣不レ

僧問石門——『円悟錄』一八、拈
吉。『略錄』に存する「禪指一下云」
の禅機を示す語は、正本・門本で
は、「以拂子打一圓相」とある。

研究ノート 「永平略録」と「永平広録」の関係(下) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
<p>大劫修來不レ能レ爲也大衆 欲レ見レ僧祇劫レ麼彈指一下 云只這便是喚作一本有 得一麼喚作修來得一麼這裡 見得便是時移歲換臘盡春回 坐斷十方冥通三際舊歲 實不去新年實不來來去 不交參新舊絕對待所以 僧問石門一年窮歲盡時如何 石門云東村王老夜燒錢僧 問開先一年窮歲盡時如何開 先云依舊孟春猶寒今夜忽 有箇僧問永平年窮歲盡 時如何祇向他道前村深雪 裡昨夜一枝開天寒久立</p>	<p>貪檀那施主輕生而隱居 山谷重法而不離叢林 尺壁不寶寸陰是惜不顧 萬事純一辨道也此乃佛祖 之嫡孫人天之導師也誠夫一 發菩提心參學善知識則 三阿僧祇劫之大兆也大衆 欲見三阿僧祇劫麼 以拂子打一圓相了便 道諸人喚這箇作什麼喚 這箇作圓相得麼喚這 箇作方相得麼喚這箇 作一本有得麼喚這箇作 今有得麼喚這箇作時移 年改春秋冬夏得麼喚這 作下堅窮三世橫亘十 方得麼若喚作從來皆不 是了也便墮外道邪見去也 也便墮外道邪見去也所以</p>	<p>貪檀那施主輕生而隱居 山谷重法而不離叢林 尺壁不寶寸陰是惜不顧 萬事純一辨道也此乃佛祖 之嫡孫人天之導師也誠夫一 發菩提心參學善知識則 三阿僧祇劫之大兆也大衆 欲見三阿僧祇劫麼 以拂子打一圓相了便 道諸人喚這箇作什麼喚 這箇作圓相得麼喚這 箇作方相得麼喚這箇作 一本有得麼喚這箇作 今有得麼喚這箇作時移 年改春秋冬夏得麼喚這 作下堅窮三世橫亘十 方得麼若喚作從來皆不 是了也便墮外道邪見去也 也便墮外道邪見去也所以</p>	

所以三阿僧祇劫之功德非人天

數量之所測也爲甚如斯

如斯且如今夜臘月卅日明

且如今夜臘月卅日明日大

日大新年頭喚明日作臘

新年頭喚明日作臘月卅

月卅日即不可也喚今夜

日即不可也喚今夜作大

作大新年頭即不可也既

新年頭即不可也既喚臘

喚臘月作新年不得則

新年頭不得則知舊歲實不

知新歲真不來喚新年作

新年頭不來喚新年作臘月

臘月不得則知舊歲實不

去舊歲既不去新歲又不來

來去不交參新舊絕對待

既不去新歲又不來去舊歲

所以僧問石門年窮歲盡時

不交參新舊絕對待所以

如何石門曰東村王老夜燒

石門曰東村王老夜燒錢後

錢後僧問開先一年窮歲盡時

僧問石門年窮歲盡時如何

如何開先曰依舊孟春猶寒

石門曰東村王老夜燒錢後

如何開先曰依舊孟春猶寒

僧問開先一年窮歲盡時如何

今夜有僧問永平年窮歲

開先曰依舊孟春猶寒今夜

盡時如何祇向他道前村深

如何祇向他道雪裏梅花一

雪裡昨夜一枝開夜深久立伏

枝開夜深久立伏惟珍重

惟珍重

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)	小参終	小参終	小参終	備考
『永平略録』	円山本 『永平広録』	門鶴本 『永平広録』		
(1) 近世學道之人龍蛇不辨菽 麥不分然欲究明亦難矣 古者道大地雪漫漫春來依 舊寒到頭成佛易却是說禪 難此病佛祖猶未脫如何未 脫謂成佛易說禪難說禪易 成佛難恁麼見解作麼生脫 得佛法難易底情見耶豈不 見僧問雲門樹凋葉落時如 何門云體露金風佛照禪師拈 云大小雲門將常住物作自己 人情雖然也是無病之	示禪人	法語	法語	
(9) 近世学道之人龍蛇不辨菽 麥不分然欲究明亦良難 矣古者道大地雪漫々春來便 依舊寒到頭成佛易却是說 禪難此病佛祖猶未脫如何 未脫謂成佛易說禪難說禪 易成佛難恁麼見解作麼生 脫得佛法難易底情見耶豈 不見有僧問雲門樹凋葉落 時如何門云體露金風後來 光佛照拈曰大小雲門將常 住物作自己人情點檢得		法語	法語	
(10) 近世辨道之人龍蛇未分要 知者深爲難也有甚其難 古者道大地雪漫漫春來便 不寒到頭成佛易却是說禪 難此病佛祖猶未脫如何未 脫謂成佛易說禪難說禪易 成佛難恁麼見得佛祖禪道難 畢竟如何理會有僧問雲 門樹凋葉落時如何門云體 露金風後來光佛照云大 小雲門將常住物作自己 人情點檢得出朝打三千暮				古者道——『普灯錄』二、法昌倚遇 章。有僧問雲門——『雲門錄』下。 『略録』に「示禪人」の語あるも 円本・門本になし。

藥釋迦老子一期出世爲大醫王爲愍衆生深沈苦海於是興慈運悲以種方便演_二出一大藏教皆是應病與藥令一切有情得到_二大安樂之地底方子及至_二達磨西來子子孫孫皆用_二砒霜狼毒要使病者絕後再甦如海上單方雖多_二神驗正眼看來總是好肉剜瘡若是本色手段又且不然不執_二方書不在_二診候日機銖兩應變臨時任是佛病祖病不銷輕輕一捏盡使換骨洗腸神清氣爽所謂一丸消_二衆病不假_二藥方多老漢通身是病正覈一起不得普燈都正既有如_レ此作略試令着眼看若觀

出朝打三千暮打八百了庵門下又且如何放下拄杖釋迦老子一期出世爲大醫王憐愍衆生深沈苦海於是興慈運悲以種種方便演_二出一大藏教皆是應病與藥令一切有情得到_二大安樂之地底方子及至_二達磨西來子子孫孫皆用_二砒霜狼毒要使病者絕後再甦如海上單方雖多_二神驗正眼看來總是好肉剜瘡若是本色手段又且不然不執_二方書不在_二診候日機銖兩應變臨時任是佛病祖病不銷輕輕一捏盡使換骨洗腸神清氣爽所謂一丸消_二衆病不假_二藥方多老漢通身是病正覈一起處不得普燈都正

門鶴本『永平廣錄』	正山本『永平廣錄』	得透則扁鵲盧醫並立下風也
既有一如レ此作略試令着レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	處不レ得普燈都正既有如レ此作略試令著レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	(2)諸佛大道深妙不可思議修行者豈容易耶不レ見古人捨一身命棄國城妻子視レ之如瓦礫相似然後經歎劫數獨接山林身心如枯木方始與道相應既與道合便能借山川爲言語拈風雨爲舌頭說破太虛轉無等輪等輪何用不レ能何法不可志於道者可レ遵這風範昔日有僧問法眼禪師如何是古佛法眼云即今也無僧又問十二時中如何
既有一如レ此作略試令着レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	處不レ得普燈都正既有如レ此作略試令著レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	(1)諸佛大道深妙不可思議修行者豈容易耶不レ見古人妙則捨身命棄國城妻子觀レ之如瓦礫相似然後經歷劫數獨接山林身心如枯木方始得與道相應既得與道合便能借山川爲言語及拈風雨爲舌頭說破大虛轉無等輪何用不レ能何法不可志於道者可レ遵這風範昔日有僧問法眼禪師曰如何是古佛
既有一如レ此作略試令着レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	處不レ得普燈都正既有如レ此作略試令著レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	(12)諸佛大道深妙不可思議矣修行之者豈能容易也不レ見古人妙則捨身命棄國城妻子觀レ之如瓦礫相似然後經歷劫數獨接山林身心如枯木方始得與道相應既得與道合便能借山川爲言語及拈風雨爲舌頭說破大虛轉無等輪何用不レ能何法不可志於道者可レ遵這風範昔日有僧問法眼禪師曰如何是古佛
既有一如レ此作略試令着レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	處不レ得普燈都正既有如レ此作略試令著レ眼看若観得透則扁鵲盧醫並立下風也	有僧問法眼「宏智錄」四。他亦有道「宏智錄」四。釈迦老子道「遺教經」。【略錄】・正本には「勉之勉之」の語あるも門本になし。

行履法眼云歩歩踏着夫出家人但隨時及節便得寒即寒熱即熱欲知佛性義當觀時節因緣但守分隨時密究此意如何是隨時是守分但於色上莫作非色解亦莫作色解亦不走兩頭即忘嫌疑與他古佛同住同行猶相照所以釋迦老子道沙門入聚落猶如蜂採花但取其味不壞其色何不順這時節十二時中逢緣遇境但取其味莫壞其色向你道稟他萬緣印被他萬法證須是不壞色香之時節也離此若有則萬象爲汝證明山僧事不得已道了然道者志道之切

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
餘輩未レ可レ齊レ肩是以於ニ 毫端ニ聊爲點出以資ニ参究ニ 勉レ之勉レ之	離レ此若有則萬象爲レ汝證明 山僧事不得レ已道了然道 者志レ道之切餘輩未レ可レ齊 肩是以於ニ毫端ニ聊爲點出 以資ニ参究ニ勉レ之勉レ之	向レ你道稟他萬縁印被他 萬法證須悉是不壞色香之 時節也離レ這若爲有山僧 事不得レ已領晒了然道者 志道之切餘輩未レ可レ齊肩 是以彩這毫于佛祖之道何 必壞他色香	
普勸坐禪儀	普勸坐禪儀	普勸坐禪儀	
原夫道本圓通爭假ニ修證ニ宗 乘自在何費ニ功夫ニ况乎全體 迺出ニ塵埃ニ孰信ニ拂拭之	觀音導利興聖寶林寺沙門道元撰 原夫道本圓通爭假ニ修證ニ宗 乘自在何費ニ功夫ニ况乎全體 迺出ニ塵埃ニ孰信ニ拂拭之	觀音導利興聖寶林寺沙門道元撰 原夫道本圓通爭假ニ修證ニ宗 乘自在何費ニ功夫ニ况乎全體 迺出ニ塵埃ニ孰信ニ拂拭之	
手段ニ大都不レ離ニ當處ニ豈 用ニ修行之脚頭ニ者乎然而毫 釐有レ差天地懸隔違順纔起	手段ニ大都不レ離ニ當處ニ豈 用ニ修行之脚頭ニ者乎然而毫 釐有レ差天地懸隔違順纔起	手段ニ大都不レ離ニ當處ニ豈 用ニ修行之脚頭ニ者乎然而毫 釐有レ差天地懸隔違順纔起	
正本・門本には「觀音導利興聖寶林寺沙門道元撰」の語あるも「略録」になし。 「略録」の「普勸坐禪儀終」の語は正本ではなく、門本では「普勸坐禪儀 法語終」とある。			

紛然失レ心直饒誇レ會豊レ悟
兮獲レ譬地之智通レ得レ道明レ
心兮舉レ衝天之志氣レ雖レ逍
遙於入頭之邊量レ幾虧レ闕於
出身之活路レ矧彼祇園之爲
生知レ兮端坐六年之蹤跡可レ
見少林之傳レ心印レ兮面壁九
歳之聲名尚聞古聖既然今人
盍レ辨所以須レ休レ尋言逐
語之解行レ須レ學レ回光返照
之退歩レ身心自然脱落本來
面目現前欲レ得レ恁麼事レ急
務レ恁麼事レ夫參禪者靜室
宜焉飲食節矣放レ捨諸緣レ
休息萬事不レ思レ善惡レ莫レ
管是非停レ心意識之運轉レ
止念想觀之測量レ莫レ圖作
佛レ豈拘レ坐臥レ乎尋常坐處
厚敷レ坐物レ上用レ蒲團レ或結

紛然失レ心直饒誇レ會豊レ悟
兮獲レ譬地之智通レ得レ道明レ
心兮舉レ衝天之志氣レ雖レ逍
遙於入頭之邊量レ幾虧レ闕於
出身之活路レ矧彼祇園之爲
生知レ兮端坐六年之蹤跡可レ
見少林之傳レ心印レ兮面壁九
歳之聲名尚聞古聖既然今人
盍レ辨所以須レ休レ尋言逐
語之解行レ須レ學レ回光返照
之退歩レ身心自然脱落本來
面目現前欲レ得レ恁麼事レ急
務レ恁麼事レ夫參禪者靜室
宜焉飲食節矣放レ捨諸緣レ
休息萬事不レ思レ善惡レ莫レ
管是非停レ心意識之運轉レ
止念想觀之測量レ莫レ圖作
佛レ豈拘レ坐臥レ乎尋常坐處
厚敷レ坐物レ上用レ蒲團レ或結

紛然失心直饒誇レ會豊レ悟
兮獲レ譬地之智通レ得道明心兮
舉レ衝天之志氣レ雖レ逍
遙於入頭之邊量レ幾虧レ闕於
出身之活路レ矧彼祇園之爲
生知レ兮端坐六年之蹤跡可
見少林之傳レ心印レ兮面壁九
歳之聲名尚聞古聖既然今人
盍レ辨所以須レ休レ尋言逐
語之解行レ須レ學レ回光返照
之退歩レ身心自然脱落本來
面目現前欲レ得レ恁麼事レ急
務レ恁麼事レ夫參禪者靜室
宜焉飲食節矣放レ捨諸緣レ
休息萬事不レ思レ善惡レ莫レ
管是非停レ心意識之運轉レ
止念想觀之測量レ莫レ圖作
佛レ豈拘レ坐臥レ乎尋常坐處
厚敷レ坐物レ上用レ蒲團レ或結

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
<p>跏趺坐或半跏趺坐謂結跏趺 坐先以右足安左脛上左足安右脛上半跏趺坐但以左足厭右脛矣寬繫衣帶可レ令齊整次右手安左足上左掌安右掌上兩大拇指面相拄矣乃正レ身端坐不得左側右傾前躬後仰要令耳與肩對鼻與臍對舌掛上脰唇齒相着目須常開鼻息微通身相既調欠氣一息左右搖振兀坐定思量箇不思量底不思量底如何思量非思量此乃坐禪之要術也所謂坐禪非習禪也唯是安樂之法門也究盡菩提之修證也公案現成羅籠未到若得此意如龍</p>	<p>跏趺坐或半跏趺坐謂結跏趺 坐先以右足安左脛上左足安右脛上半跏趺坐但以左足厭右脛矣寬繫衣帶可レ令齊整次右手安左足上左掌安右掌上兩大拇指面相拄矣乃正レ身端坐不得左側右傾前躬後仰要令耳與肩對鼻與臍對舌掛上脰唇齒相着目須常開鼻息微通身相既調欠氣一息左右搖振兀坐定思量箇不思量底不思量底如何思量非思量此乃坐禪之要術也所謂坐禪非習禪也唯是安樂之法門也究盡菩提之修證也公案現成羅籠未到若得此意如龍</p>	<p>坐或半跏趺坐謂結跏趺坐先以右足安左脛上左足安右脛上半跏趺坐但以左足厭右脛矣寬繫衣帶可レ令齊整次右手安左足上左掌安右掌上兩大拇指面相拄矣乃正身端坐不得左側右傾前躬後仰要令耳與肩對鼻與臍對舌掛上脰唇齒相著目須常開鼻息微通身相既調欠氣一息左右搖振兀坐定思量箇不思量底不思量底如何思量非思量此乃坐禪之要術也所謂坐禪非習禪也唯是安樂之法門也究盡菩提之修證也公案現成羅籠未到若得此意如龍得水似</p>	

得レ水似虎靠レ山當知正法自現前昏散先撲落若從
坐起徐徐動レ身安詳而起不レ應卒暴嘗觀超凡越聖坐
脫立亡一二任此力矣况復拈指竿針鎌之轉機一舉拂
拳棒喝之證契未是思量分別之所能解也豈爲神通修證
修證之所能知也可爲聲色之外威儀那非知見之前軌
則者歟然則不論上智下愚莫簡利人鈍者專一功夫正
是辨道修證自不染汚趣向更是平常者也凡夫自界他
方西天東地等持佛印一印一擅宗風唯務打坐被礙兀
地雖謂萬別千差祇管參禪辨道何拋却自家之坐牀謾
去來他國之塵境若家之坐牀謾去來他國之塵境若

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	円山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
<p>境若錯一步當面蹉過既得人身之機要莫虛度光陰保任佛道之要機誰浪樂石火加以形質如草露運命似電光倏忽便空須臾即失糞其參學高流久習摸象勿恠真龍精進直指端的之道尊貴絕學無爲之人合沓佛佛之菩提嫡嗣祖祖之三昧久爲恁麼須是恁麼寶藏自開受用如意</p>	<p>錯一步當面蹉過既得人身之機要莫虛度光陰保任佛道之要機誰浪樂石火加以形質如草露運命似電光倏忽便空須臾即失糞其參學高流久習摸象勿恠真龍精進直指端的之道尊貴絕學無爲之人合沓佛佛之菩提嫡嗣祖祖之三昧久爲恁麼須是恁麼寶藏自開受用如意</p>	<p>當面蹉過既得人身之機要莫虛度光陰保任佛道之要機誰浪樂石火加以形質如草露運命似電光倏忽便空須臾即失糞其參學高流久習摸象勿恠真龍精進直指端的之道尊貴絕學無爲之人合沓佛佛之菩提嫡嗣祖祖之三昧久爲恁麼須是恁麼寶藏自開受用如意</p>	
<p>普勸坐禪儀終</p>	<p>坐禪儀</p>	<p>坐禪儀</p>	
<p>慕宏智禪師坐禪箴而作此箴一 佛佛要機祖相機要不思量</p>	<p>坐禪箴</p>	<p>坐禪箴</p>	<p>「略録」・円本には「坐禪箴」ある も、門本にはなし。 円本には「永平寺語録卷第八終」 の語あるも、「略録」・門本になし。</p>

而現不_二回互_一而成不_二思量_一
而現其現自親不_二回互_一而成
其成自證其現自親曾無_二染
污_一其成自證曾無_二正偏_一曾
無_二染污_一之親其親無_レ委而
脱落曾無_二正偏_一之證其證
無_レ圖而功夫水清徹_レ地夸魚
行似_レ魚空闊透_レ天夸鳥飛
如_レ鳥

自贊

(1) 鼻高_レ於山眼明_レ於珠頭匾
似_レ扇脚尖如_レ驢入室愛_レ舉
臭拳_一陞堂借_二力拄杖_一遇_二
乞_レ水人_一指_二天井_一遇_二覓_レ飯
人_一與_二應量_一昔因_レ護_二持雞
狗等戒_一今日竊_二得佛祖屈

而現不_二回互_一而成不_二思量_一
而現其現自親不_二回互_一而成
其成自證其現自親曾無_二染
污_一其成自證曾無_二正偏_一曾
無_二染污_一之親其親無_レ委而
脱落曾無_二正偏_一之證其證
無_レ圖而功夫水清徹_レ地夸魚
行似_レ魚空闊透_レ天夸鳥飛
如_レ鳥

自贊

永平寺語錄卷第八終

(16) 鼻高_二於山眼明_二於珠_一頭匾
似_レ扇脚尖如_レ駒入室愛_レ舉
臭拳_一陞堂借_二力拄杖_一遇_二
乞_レ水人_一指_二天井_一遇_二覓_レ飯
人_一與_二應量_一昔因_レ護_二持鷄
狗等戒_一今日偷_二得佛祖屈

而現不_二回互_一而成不_二思量_一
而現其現自親不_二回互_一而成
其成自證其現自親曾無_二染
污_一其成自證曾無_二正偏_一曾
無_二染污_一之親其親無_レ委而
脱落曾無_二正偏_一之證其證
無_レ圖而功夫水清徹_レ地夸魚
行似_レ魚空闊透_レ天夸鳥飛
如_レ鳥

自贊

(16) 巴鼻高_レ於山眼睛明_レ於海
頭匾似_レ扇脚尖如_レ駒入室
愛_レ舉_二臭拳_一陞堂借_二力拄
杖_一遇_二乞_レ水人_一指_二天井_一遇_二
覓_レ飯人_一指_二冷餌_一昔因_レ護_二
持_レ鷄狗等戒_一今日偷_二得佛祖屈

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	兀山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(2) 老梅樹老梅樹長養枝枝葉葉 春兀地一機歷歷莊嚴三昧塵 塵拄杖頭全無節目蒲團上有 有十方身弄鳳毛而捉得天童 得天童鼻孔入虎穴而笑大休 笑大休口唇住山頑石叢林陳人	珣紛々林下錯商量笑殺靈山那一瞬	珣紛々林下錯商量笑殺靈山那一瞬	屈珣雖然如是天上天下笑咍々這箇飯袋子
(1) 老梅樹老梅樹長養枝々葉々 春兀地一機歷々莊嚴三昧塵々拄杖頭全無節目蒲團上有二十方身弄鳳毛而捉得天童鼻孔入虎穴而笑大休口唇住山頑石叢林陳人	珣紛々林下錯商量笑殺靈山那一瞬	珣紛々林下錯商量笑殺靈山那一瞬	屈珣雖然如是天上天下笑咍々這箇飯袋子
(1) 老梅樹々々長養枝々葉々 春兀地一機歷々莊嚴三昧塵々拄杖頭全無節目蒲團上有二十方身弄鳳毛而捉得天童鼻孔入虎穴而笑大休口唇住山頑石叢林陳人	屈珣雖然如是天上天下笑咍々這箇飯袋子	屈珣雖然如是天上天下笑咍々這箇飯袋子	屈珣雖然如是天上天下笑咍々這箇飯袋子
(20) 種田搏飯地藏家風深山栽松臨濟榜樣披雲巖雲居之袈裟挽雪山雪庭之氣象面目分明舉似挂向高堂供養	種田搏飯地藏家風深山栽松臨濟榜樣披雲巖雲居之袈裟挽雪山雪庭之氣象面目分明舉似挂向高堂供養	種田搏飯地藏家風深山栽松兮臨濟骨肉雖然恁麼雲岩雲居之袈裟挽雪山雪庭之氣雪竇之面目戲弄須菩提之唐談又笑維摩詰之燕默也非心非佛	種田搏飯——「宏智頌古」一二。 深山栽松——「臨濟錄」、行錄。

偈頌

師嘗於大宋寶慶二年丙戌寓慶元府大白名山天童景德禪寺

偈頌

師嘗於大宋寶慶二年丙戌寓慶元府太白山天童景德禪寺

玄和尚偈頌

侍者詮慧等編

門本に「侍者詮慧等編」の語ある
も「略錄」・正本になし。
正本・門本に「師嘗於大宋寶慶二
年丙戌寓慶元府大白(名)山天童景德
禪寺」の語あるも「略錄」になし。

(1)

遊禮補陀巖
聞思修入三摩地自己端嚴
現聖顏爲告來人明此
意觀音不在寶陀山

(44)

詣昌國縣補陀洛迦山因題
聞思修入三摩地自己端嚴
現聖顏爲告來人明此
意觀音不在寶陀山

(45)

詣昌國縣補陀話迦山因題
聞思修本證心間豈覓洞中
現聖顏我告來人須自覺
觀音不在寶陀山

【略錄】の「遊禮補陀巖」の語は、
正本・門本では「詣昌國縣補陀洛
迦山因題」とある。

(2)

禪人求頌
瞻風撥草要參禪祖意明明
妙不傳莫恨江山千萬疊頭
爲汝闢玄門

(64)

禪人求頌
瞻風撥草要參禪祖意明々
妙不傳莫恨江山千萬疊頭
々爲汝闢玄門

(64)

與禪人求頌
尋師訪道是參禪此段風流
自古傳誰恨江山千万疊還
鄉脚下悉良緣

【略錄】の「禪人求頌」の語は、
門本では「與禪人求頌」とある。

(3)

與王侍郎
說妙談玄總掠虛忘言獨

(36)

與王侍郎五首
說妙談玄總掠虛忘言獨

(37)

與王侍郎五首
說妙談玄達者誰忘言閑坐

研究ノート 『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(4) 坐口如レ槌初非三把定誇孤 絶百草頭邊盡撥揮	坐口如レ槌初非三把定誇孤 絶百草頭邊盡發揮	口如レ錐通レ宗通レ説好知識 百草頭辺光轉輝	
(5) 鴻蒙既兆三才現覧甚當人 本性來象外一機能着レ眼笑 觀石女舞三臺	(29) 鴻蒙既兆現三才覧甚當人 人本性來象外一機能着眼 笑觀石女舞三臺	(30) 鴻蒙破後三才現悉是當人本 性來人物融通非兩象勿レ 教石女拜中三台上	「略録」・正本の「贈成忠」の語は、 門本では「與成忠」とある。 〔宝鏡三昧〕参照。
(6) 天然妙智自真如何假儒書 及佛書獨坐繩床口掛レ壁 等閑一實勝千虛	(18) 天然妙智自真如何假儒書 及佛書獨坐繩牀口掛レ壁 等閑一實勝千虛	(18) 天然妙智自真如何借儒論 及佛書靠坐閑床掛口 壁知音到此脫空虛	〔略録〕・正本の「贈茹秀才」の語 は、門本では「與茹秀才」とある。
(9) 大道從來一實通蓬瀛何必 在壺中逍遙世外誰人識赤 肉團邊振古風	(9) 大道從來一貫通蓬瀛何必 在壺中逍遙世外誰人識赤 肉團邊振古風	(9) 大道從來一貫通蓬瀛豈在 外邊中逍遙曳杖高声誦赤 肉團頭起古風	〔略録〕・正本の「和文本官長韻」 の語は、門本では「和文本官人韻」とある。

(7) 和妙溥韻	本來心地自寧寧無法咨參 卓爾靈坐斷從前凡與聖 何勞特地見明星
(23) 和妙溥韻五首	本來心地自寧々無法咨參 卓爾靈坐断從前凡與聖 何勞特地見明星
(23) 和妙溥韻五首	元来心地本安寧無法咨參 而自靈体究竟名凡与聖何 勞黃面見明星
(75) 重陽與兄弟再會	去年九月此中去九月今年 自此來拈却古來年月日 凭欄一笑菊花開
(93) 重陽與兄弟再會	去年九月此中去九月今年 自此來拈却古來年月日 凭欄一笑菊花開
(93) 重陽與兄弟言志	去年九月此中去九月今年 自此來休憶去來年月日 懽看叢裡菊花開
(9) 冬至示徒二首	昨日短兮今日長了無佛法 可商量絕商量後如何委 到處逢人賀一陽
(93) 冬至二首	昨日短兮今日長了無佛法 可商量絕商量後如何委 到處逢人賀一陽
(93) 冬至二首	昨日短兮今日長雖無稜 角好商量勸君急著眼睛 見休向天邊問大陽上
(10) 觸處逢渠全面目翻身廻 回首首向天通一期縱借拳 頭力出氣須還鼻有功	(94) 觸處逢渠全面目翻身廻 回首首向天通一期縱借拳 頭力出氣須還鼻有功
〔略録〕・正本の「重陽與兄弟再會」の語は、門本では、「重陽與兄弟言志」とある。	

研究ノート『永平略録』と『永平広録』の関係(下) (菅原)

『永平略録』	正山本『永平広録』	門鶴本『永平広録』	備考
(11) 在相州鎌倉聞驚蟄 作	(77) 在相州鎌倉聞驚蟄 作	(77) 因在相州鎌倉聞驚蟄 作	
半年喫飯白衣舍老樹梅花 霜雪中驚蟄一聲轟霹靂帝 鄉春色小桃紅	半年喫飯白衣舍老樹梅花 霜雪中驚蟄一聲轟霹靂帝 鄉春色小桃紅	半年喫飯白衣舍老樹梅花霜 雪中驚蟄一雷轟霹靂帝鄉 春色桃花紅	
(12) 山居六首	(100) 山居十五首	(100) 山居十五首	
西來祖道我傳東釣月耕 雲慕古風世俗紅塵飛不 到深山雪夜草庵中	西來祖道我傳東釣月耕 雲慕古風世俗紅塵飛不 到深山雪夜草庵中	西來祖道我傳東瑩月耕雲 慕古風世俗紅塵飛豈到深 山雪夜草庵中	
(13) 夜坐更闌眠未熟情知辨道 可山林溪聲入耳月到眼 此外更須何用心	(101) 夜坐更闌眠未熟情知辨道 可山林溪聲入耳月到眼 此外更須何用心	(101) 夜坐更闌眠未至弥知辨道 可山林溪声入耳月穿眼 此外更無一念心	
(14) 久在人間無愛惜文章筆 硯既拋來看花聞鳥風情少 一任時人笑不才	(105) 久在人間無愛惜文章筆 硯既拋來看花聞鳥風情少 乍在山猶愧不才	(105) 久在人間無愛惜文章筆 硯既拋來見花聞鳥風情少 乍在山猶愧不才	「略録」・正本の「在相州鎌倉聞驚蟄」の語は、門本では「因在相州鎌倉聞驚蟄作」とある。帝鄉春色（如淨録）（台州瑞巖寺語錄）参照。

(15) 三秋氣肅清涼候
纖月叢虫萬感中夜靜更闌
看二北斗一曉天
將レ到指於東

(16) 三間茅屋既風涼
鼻觀先參秋菊香鐵眼銅睛誰辨別
越州九度見重陽

(17) 三間茅屋足清涼
鼻孔難瞞秋菊香鐵眼銅睛何潦倒
越州九度見重陽

(16) 三間茅屋既風涼
鼻觀先參秋菊香鐵眼銅睛誰辨別
越州九度見重陽

(17) 三間茅屋足清涼
鼻孔難瞞秋菊香鐵眼銅睛何潦倒
越州九度見重陽

(18) 三間茅屋足清涼
鼻孔難瞞秋菊香鐵眼銅睛何潦倒
越州九度見重陽

(17) 前樓後閣玲瓏起峯頂浮圖六
七層月令風高箇時節衣傳半
夜坐禪僧

(18) 前樓後閣玲瓏起峰頭浮圖六
七層月令風高箇時節衣傳半
夜坐禪僧

(19) 前樓後閣玲瓏起峯頭塔婆五
六層月令風秋立睡鶴衣傳半
夜坐禪僧

前樓後閣玲瓏——【如淨錄】(天童景德寺語錄) 參照。

永平元禪師語錄終

永平寺語錄卷第十終

玄和尚偈頌終